

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 元年 10月 16日

事業所名 ブルーミングキッズこはる

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	16	83		学習と身体活動を分けています。施設外への活動も取り入れています。	・配置を工夫してスペースを今以上に確保します。
	2	職員の配置数は適切である	83	16		利用人数に応じて加配以上の人数を配置しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	83	16			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	83	16		専門職の意見を取り入れながら進めている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83	16			・今後もアンケート等行い意向を反映し支援できるようにしていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	66	33			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33	50	16		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	16	83			・研修会の開催を適宜行います
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50	50			・アセスメント表を全員集約します。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	83	16			・パートの職員も毎回参加できるよう時間帯を調整します。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100				
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	83	16		個別の支援内容について、一覧表を作成し随時確認できるようにしています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83	16			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	66	33		毎日利用時の事については協議している。協議して対応に変更があった場合には連絡ノートに記入し周知しております。	今後も継続して対応します。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100				
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	66	33			モニタリング結果については個人記録に添付し、適宜確認できるようにします。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	66	33				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	66	33		担当者会議には随時児発管や施設長が参加しております	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100			毎月個別の活動報告を学校へ配布しております。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	83	16		利用前に主治医を確認しております。必要時連絡して対応しております	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	33	50	16		未就学児については訪問し情報を収集するよう対応します。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	33	33	33		前例がない。今後は随時対応します。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50	33	16		困難事例の時は連携して対応していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33	16	50	長期休みの時には来訪してもらい一緒に活動してもらっている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	33	16	50		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83	16			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50	33	16		ペアレントトレーニングについては施設内研修を行い実施します。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33	66			保護者会の開催を検討し実施します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100			不安な点等随時保護者への確認を行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	33	66			保護者へ連絡帳以外での書面の報告をします。
	35	個人情報に十分注意している	100				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		66	33		個人情報を踏まえたうえで保護者に確認をとり、行事等を決めていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	33	66			保護者にマニュアルを配布する。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	66	33				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	33	66			虐待防止の研修は随時参加しているが、新しい職員にも研修を受けてもらう。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			83	16		身体拘束は基本的に行わない方針で対応している為前例がない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100				アレルギー等は事前に聞き取りして周知徹底している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	33	66			事故やヒヤリハットはすぐにわかるよう対応と報告を共通ノートにて報告している	